

# アメリカビザ申請のプロセスと経験

火曜日の午後、ふと思い立ってアメリカに行ってみたくなりました。フォームの記入と支払いを始め、今日の金曜日の朝に面接が通りました！パスポートを持っている場合、3日で面接を終えることができ、考えるだけで少し興奮します。

経緯を共有します。友達の影響を受けて、次々とアメリカに留学、インターン、仕事に行くのを見て、私も少し心が動きました。シリコンバレーの起業に関する記事をたくさん読んで、とても憧れていました。最近、byvoidの一年間の旅行記を読みました。byvoidは清華大学10期の本科生で、13年に13カ国を旅し、ヨーロッパを13日間で1万円以下で旅しました。彼は以前どこにも行ったことがなく、一度に多くの国を訪れたタイプで、以前は難しいと思っていたことが、今では簡単に実現できると感じたと言っていました。私の前の上司もシリコンバレーから留学して帰ってきた人で、清華の友達は去年の夏にGoogle本社でインターンをし、先日私の家に来てシリコンバレーの話をしてくれました。だから、なぜ彼らはアメリカに行けるのに、私は行けないのでしょうか？

以下に具体的な経緯を説明します。半年前、前の会社が海外旅行を計画していたので、実家に戻ってパスポートを取得しました。主に戸籍が実家にあるためで、取得してからずっとパスポートを置いていました。

今週の火曜日の午後、ふと思い立ってオンラインでDS160フォームを記入し、面接を予約し、1000元ちょっとを支払い、金曜日にアメリカ大使館で面接を受けました。

来る前に、Zhihuで多くの面接に関する投稿を読み、多くの拒否された経験を見たので、私もとても心配でした。私の初めての海外旅行がアメリカで、白紙のパスポートでは拒否率が高いようで、日本などの先進国に行ったことがあることを示す必要があるようです。また、現在は起業会社を共同で立ち上げていますが、まだ給料を支払うことができていません。数ヶ月経って、お金もあまり残っていません。そこで、友達から1万円、両親から1万5千円を借りて、一時的に補充しました。ここで言うておきますが、私は両親とお金に関しては友達のような関係で、最近彼らが返済のために必要な金額を私に送り、働き始めた最初の半年は毎月5千円を納めていました。少しお金を集めた後、銀行で取引明細を印刷し、見栄えを良くしようとしました。自分では今の状況が良くないと感じていたので、家で会話を練習し、パソコンで回答を書いてみました。

予約は朝7時45分で、大使館に到着し、長い列に並び、一つの関門を越えるとまた長い列、予約の登録、指紋の登録、面接。面接官は25歳くらいのアメリカのハンサムな男性で、最初にパスポートを渡すと、英語で聞かれました：

「アメリカに行く目的は何ですか？」

「Googleを見てみたいです。現在は会社の創設者で、シリコンバレーには多くのスタートアップがあるので、そこを訪れて自分の会社を改善したいです。多くの友達がアメリカに行っているの、私も行ってみたいです。アメリカには実家の姉が嫁いでいるので、訪ねたいです。」練習していたので、英語は流暢に話せました。

「あなたの友達はアメリカで何をしていますか？」と、彼は中国語で聞いてきました。

「彼はGoogleで働いています。」

彼はしばらくキーボードを叩き、私に聞きました、家がありますか。

「はい、広州に両親の家があります。」

「Your are approved, yours is ok.」

「Thank you」と、少し微笑み、心の重荷が下りました。

準備した資料は結局使われませんでした。ビザ官は私が国内での関係がしっかりしているか、アメリカの連絡先に不良な歴史がないかを見たかったようです。彼らは誰もが移民の傾向があると仮定し、あなたの資料を見て、質問をして、その仮定を消すことができるかどうかを確認します。

後で出てきて、私の携帯電話とバッグを見守ってくれたおばさんに聞いてみると、彼女は通過率は90%だと思っていると言っていました。

三日間で、多くのことはただやったことがないから怖くて、自信がないだけで、実際にやってみると、ほとんどのことはとても簡単だと気づきました。人生には無限の可能性が 있습니다。常に自分に挑戦する必要があります。

携帯電話を持ち込むことが許されていないので、アメリカ大使館前の写真を無理やり添付します。